
しろはく活動記録

古地図と城の泉 第34号

成東城跡貞享絵図発見現地縄張調査報告

HP 新設挨拶 <http://www.shirohaku.com/>

アメリカ世界航空地形図 ONC・TPC190枚収納

新資料山崎辺御固西洋流御煩配置絵図

満州軍総司令部作成地形図28枚日露戦争中

平成28年6月15日

しろはく古地図と城の博物館 富原文庫

城郭現地調査報告及び資料調査

博物館事業報告

1・千葉県山武市成東城跡貞享絵図発見に伴う現地縄張調査報告書

平成28年5月17日



しろはく古地図と城の博物館
富原文庫

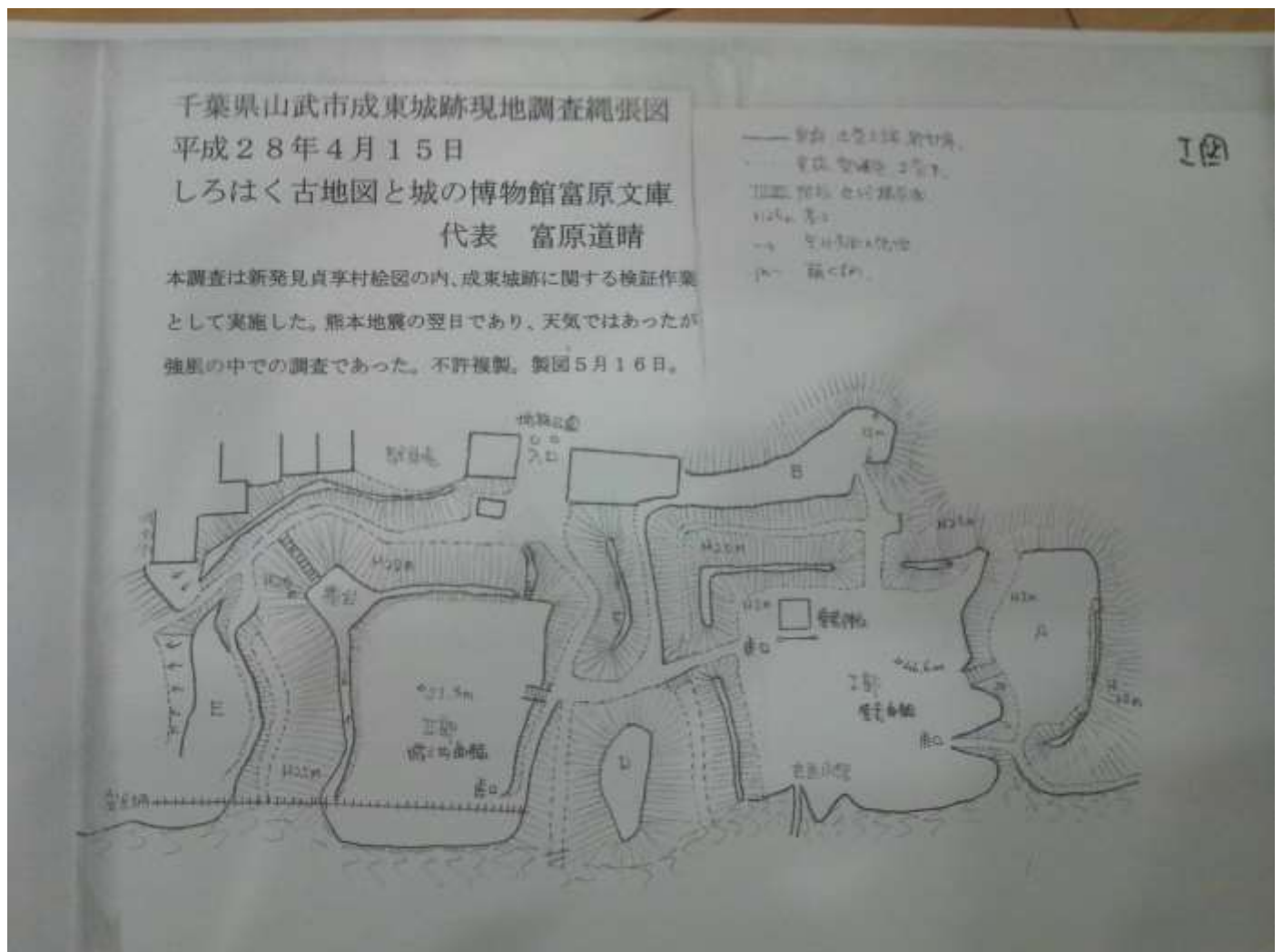
代表 富原道晴

1・4月15日成東城跡縄張調査

熊本地震の翌日、強風の中、高台にある城跡の調査に踏み切った。現状は主要部が成東城跡公園になっており、この部分のみ土塁、空堀、削平地がよく残されていたが、

城跡全体は昭和46年の富士見台宅地開発により消滅していた。今回は時間の関係で宅地の周辺断崖上に遺存している可能性の遺構調査は出来なかった。主要部については1000分1測量図が残されていたようであるが、(成東町の城跡33p)教育委員会でも確認できなかった。

主要部は愛宕神社があるⅠ郭(愛宕曲輪)とⅡ郭(城の内曲輪)で構成され、城郭全体は標高50mの独立丘陵状に位置し、Ⅰ郭東南分は比高35mで断崖上にあり、後世、侵食されている。Ⅰ郭は約40m四方の方形で西南Ⅱ郭方向に主要な虎口、東に搦手口がある。西南と西北は土塁が残存しており、城内側で約5m、城外空堀まで約20mであった。Ⅰ郭には3方向に帯郭があり、東北の郭A東に土塁を残している。西北には郭B、西南には郭Dと現状土塁状のCがある。Bの西側、Cの北側は宅地化されている。元はB郭とC土塁は一つの帯曲輪であったと思われる。Ⅱ郭は60x40m程で、西南、西北に土塁が残存、西端に櫓台が残されている。城外側3方向には約20-25mの切岸がある。Ⅰ郭帯郭と西北。西南方向の三方に空堀が残される。空堀西北に現在の城跡公園の入り口が設けられている。空堀城外側、宅地との間は土塁が残される。城内散策用の各所に階段が設置されているが、遺構の意図を読み解くのに阻害要因となっている。本来、廃城時の現状と築城者の意図が理解できるように整備されるべきであろう。第1図



2・新発見貞享絵図の城跡中心部と現状対比

新発見絵図は箱書きに『御裏印付 村絵図』とあり、中に『貞享二乙丑年八月御裏印付村絵図 名主五郎右衛門』とある。収納されている絵図に城の地割を発見したため、40ピースに分れた彩色濃彩絵図を復元したところ、村絵図と思われるその一部に大きく昭和46年住宅団地によって主要

部以外が壊滅した成東城跡が大きく克明に描かれていた。絵図には貞享2年1685年に作成され、台地上の壊滅した外郭の構造が描かれていた。156 x 200 cm大型絵図で、描画範囲をすでに発見されているのと同じの『上総国武射郡成東村絵図面』が2枚あり、(95 x 95 cm)と比較したところ、まったく同一であり、全体は成東村絵図である。面積は従来の絵図の4倍で能筆であった。従って、絵図の内容は箱書きと一致する。収納されている絵図には本図以外に今回対象としないが、能筆で城跡の西、成東高校が建てられている台地の詳細絵図(90 x 90 cm)、さらに成東堰と下流村絵図、方位絵図、さらに測量原図と思われる針穴付きの絵図1枚が64ピースに分れている。今回検証の対象とするのは、すでに検証されている絵図と同一の村絵図2枚ではなく、箱書き通りの巨大な村絵図である。

図Ⅱは本図の城跡公園部分である。堀と土塁が入り混じる中でⅠ郭に愛宕山が描かれている。現状との比較検討したのが図Ⅲで、先に述べたようにⅠ郭西北と西南のB,Cが繋がっていたことが証明される。そのほかⅠ郭西北の土塁に切れ目がないこと、Ⅱ郭西の空堀が繋がっていたこと、Ⅱ郭の西、Eのさらに西に空堀があった事が判明する。 下第2図 その下第3図



3・絵図にみる成東城外郭の構造

貞享絵図は村絵図であるため、台地全体を詳細に描画している。この絵図と遺構残存時に実施した篠丸頼彦の見取図、中西三郎の見取図(成東の城跡図10-1・3)を検討したい。

城跡を何時築かれた遺構と議論されることが多いが、現存遺構は廃城時の最末期の遺構のみであり、遺構を検討するのは、歴代城主ではなく、廃城後と近代の宅地造成等変貌を検討するのみである。成東城は天正18年1590年徳川家康の関東移封により、8月石川康道が二万石で上総鳴戸藩成立時、慶長6年1601年大垣転封後、廃城になったといわれている。台地上に残された遺構は石川氏の成東城である。

成東城全体の構造について、主要部でⅠ郭とⅡ郭を見てきた。絵図にⅡ郭の西に台地全



体を区切る横堀はⅢ郭の帆と堀である。この空堀は両氏の見取図にも簡単に記入されているが構造を明確には残していない。絵図には空堀と記され明瞭に記入されている。さて、問題は破壊された外郭である。篠丸は外郭の一部に空堀と土塁を記入する。絵図には外郭土塁は描かれていない。複雑に横矢を持つ空堀が台地全体にめぐらされている。残念ながら虎口を読み取ることはできない。外郭内部の地割は空堀ではなく、通路と考えられ、中央に四軒の屋敷割が認められる。外郭内は下町御林と明記され、東南断崖は屋敷付沢山とされている。



第4図村絵図の内城郭部分全体 左下第5図墨線入図 右下同部分成東陣屋構築以前の図



4・貞享村絵図全体の描画内容

結城藩の成東陣屋が元禄 13 年 1701 年成東城東南山麓に構築され、明治 4 年まで存続した。貞享絵図は 1685 年陣屋構築前に描かれており、該当地には上町蔵屋敷、下町蔵屋敷の地割が描かれている。図IVは成東

城跡全体、図Vはわかりやすく線に墨入れしたもの。

5・まとめ

村絵図そのものはそんなに珍しくなく、当文庫にも多くの所蔵がある。城郭研究機関として、注力するのはそこに描かれた城跡の姿である。今回の村絵図も A3 サイズの紙片に城の痕跡を見つけたことに始まる。なければ、単なる村絵図として消滅していた可能性もある。40 片ものバラバラの絵図を復元するのに 3 日、ようやく見えたのは成東村絵図であり、城跡と思われたのは成東城跡であった。資料にはよく知られる村絵図も 2 枚含まれており、描画領域は同じであった。本図は貞享 2 年の箱書きがあり、その 4 倍の面積で細密に描かれていた。今回城跡部分以外は考証の対象としていない。それらは地域の知見によって考察されるべきであって城郭研究家である筆者の役割ではない。同様、60 数片に及ぶ測量原図と思われる墨書きの絵図も復元していない。成東城跡の測量調査、宅地造成の際壊滅したと思われる外郭の遺存遺構の解明に期待したい。

2・熊本城の地盤工学会調査 NHK 報道5月16日朝

熊本地震についてリアルな映像を提供してくれるニュースから目が離せないが、地盤工学会の調査で熊本城の石垣崩壊は地盤を削ったところではなく、盛土部分と発表された。



3・ホームページ開設 <http://www.shirohaku.com/> 多くの所蔵資料、目録一挙公開

ホームページ開設のご挨拶

平成 28 年 3 月吉日

代表 富原道晴

しろはく古地図と城の博物館富原文庫の創設は平成 12 年ですから、今年平成 28 年で 16 年となります。きっかけは、同年上田市商工会議所の依頼で上田の真田太平記館開館記念と地域活性化を目的として、商工会議所の 5 階大ホールを会場に戸石城がパノラマのように開ける展望の好立地で、1 週間、『戦国時代の城と合戦絵図展』を開催したことにあります。そこには昭和 34 年中学 1 年で『武教全書』を購入以来 40 年間集めてきた古城絵図と合戦錦絵 130 点を展示、千名余りの方に来場いただきました。ところが当時の書庫は大阪にあり、準備のため、住居である東京と大阪、開催地である上田を奔走しました。以降、東京に書庫を移設しましたが、15 万点に及ぶ資料で足の踏み場もない状況でした。そのため、平成 20 年群馬県安中市、当時の長野新幹線安中榛名駅前に博物館を新設、今日に至っています。ただ、当初資料の収納と公開展示を目的とした博物館も、平成 22 年に開館記念展である『上野動乱 絵図にみる戦国城館』を開催以降、資料の激増により、収蔵庫と化してしまい、以降は三洋グラビアさんのみまよせホールや、安中市学習の森歴史博物館、上田市真田氏歴史館で城絵図展を開催してきました。『初公開長野県の城絵図展』『城絵図にみる上州の戦国時代展』『会津若松城下絵図屏風展』『真田家の城郭とその戦歴展』『大坂冬の陣展』等であり、さらに福島県立博物館、熊本城調査研究センターほか多くの博物館等に資料の貸し出しを行ってきました。現在では、城郭資料のブラックホールと化しており、全国の骨董、古書業界から古地図と城郭資料が流入し、収蔵資料は 18 万点を超えると思われます。この間、平

成24年には42年間勤務したサカティンクス株式会社を多くの印刷の知見と優秀なスタッフに恵まれたことを感謝し、機材開発担当理事を最後に退任、24時間城という時間を持てるようになりました。経済人として、開発担当として駆け巡った体験を生かし、城郭研究家がその知見を活かし、城郭情報と資料の収集をして見ることにしました。経済人の城郭研究と位置付けています。城郭資料の収集のため古物の免許は平成5年には取得していましたが、平成25年群馬県古書籍商組合入会、ミュージアムショップ『古地図と城 城郭文庫』を立ち上げました。以降、城資料以外の古絵図、古地図、錦絵は東京ビックサイトの骨董ジャンボリー、東京流通センターの平和島骨董まつり、古書同好会の目録で、全国の博物館、コレクターに利用いただいています。城郭資料は交流センターを立ち上げ、研究者間の流通を企画しました。ホームページも10年以上前に当時のスタッフに作成していただきましたが、パソコンの故障や転居の騒ぎにより、消えたままになっていました。たまたま、長男のお嫁さん富原みな美さんがパソコンを得手としており、お願いしてホームページを作っていただきました。感謝です。

Ⅱ部 回想 城郭研究を支えてきたのは戦後、城郭研究が忌み嫌われてきた時代から、城を愛し、歩き続けてきた人々です。縄張研究という残された一級資料である城跡から真理を読み解くという崇高な作業であり、中世城郭研究会、織豊期城郭研究会、城郭談話会、少し対象が違うが、日本城郭協会、日本城郭史学会、城郭遺産を生かす会、各地城郭研究会が今日の城郭研究を支えてこられました。私は日本城郭近畿学生研究会に携わり、機関誌城春を発行、メディアに目が開き、インキメーカーを選択しました。印刷のにおいにひかれました勤務地は故郷大阪を離れ、金沢、東京と転戦したが、最終的には開発担当として印刷業界に最先端技術を届ける事、その範囲は印刷技術から、環境対策、工場設計、CDCM等省人化無人化の対応を世界中から集め、又、開発誌、オンリーワンを誇った。数100億円に上るその成果よりも業界の危機を救済し、乗り越えたことの喜びの方が大きかった。多くの災害への救済作業もオリジナルの技術で実施した。その間、城郭への対応は学生時代の日本城郭全集や金沢時代の中世城郭研究等微々たるものであるが、夢は大きく、井上宗和氏の逝去により日本城郭協会が一時活動を制止した際は全国城郭研究協議会を発足させ、城郭情報の一元化と提供を試みた。残念ながら小生の決意不足で1号雑誌に終わってしまったが、そのような活動の必要性は認知された。今はネット環境で必要があればいつでも情報が取れる時代になった。当時は地方の城郭ニュースは図書館にいつて地方新聞から集める他なかった。56年間で約4000以上の城郭遺跡を踏査してきたが、さすがに若いころが大半であり、一度行った遠方の城を再び訪れることは少ない。今城郭の研究は中世城郭研究会を卒業した多くの研究家がに担っている。決意したのは経済人としてのキャリアを生かした城への携わり方である。12歳以降68歳の今日まで56年間城にのめり込み、人生の後半28年間は時代の先端技術に携わってきた。情報の集め方、生かし方は十分に承知している。平成3年には古物の免許を取得し、骨董市場を駆けずり回った。退職後は平成24年に群馬県古書籍商組合に参加し、古書ルートの情報網もゲットした。今は城郭博物館として『しろはく古地図と城の博物館富原文庫』、ミュージアムショップとして『古地図と城専門店 古書肆 城郭文庫』を経営、ほぼ毎月メールマガジン『活動記録古地図と城の泉』を刊行している。4月にはホームページも開設の予定である。城郭研究家が城郭資料コレクターであり、古物商であり、骨董商であつたらどうなるか、今、日本国中の城郭資料のブラックホールとなっている。

4・新資料『山崎辺御固西洋流御煩配置図』検証一幕末京都防衛計画図一謎の水無瀬川堤円堡

摂海海防図を調査している中で、少し異質の京都防衛計画かと思える絵図を見つけ、検証することとした。絵図に痛みがあるため、取り扱いと読み取りのために修理を行い。そのうえで書き込まれている文字すべてについて活字化を試みた。砲術専門用語については日本銃砲史学会峰田常務理事のご教示をいただいた。なお、煩は大砲の意味であり、本図は大砲配置図となる。



大正11年測図昭和4年
鉄道補入昭和6年印刷陸
地測量部2万5千分1地
形図に見る山崎地区
ほぼ絵図のエリアが表示
されている。

A・描画内容

天王山に**宝寺**、**八王子社**、**谷寺**があり、山麓を西国街道が縫う**大山崎庄**がある。**西国街道**に**本御番所**と**大砲**、西入り口に**黒門**、山麓に**離宮八幡**三重塔他、**神宮寺**、**妙喜庵**、**焰魔堂**(ママ)、

兵器置場が描かれる。

(本御番所説明)「**二十拇短忽微炮**ハ平常**本御番所前二据置**非常之節ハ街巷挟路之間**近町** 専ヲ**霰弾**

ヲ放發ス時宣ニ應シ**拓榴彈夜中ハ光彈亦放**之暇アラバ

速成壘壁ヲ築キ橋ノ代リトス○仏蘭西ボード忽微炮及十五拇短忽微炮ノ諸炮ハ元来野戰炮ナレハ敵ノ變態ニ随ヒ処々ニ移動 拓榴彈及霰彈光彈ヲ放發ス

(水瀬川堤説明)「**十八斤加農平常兵器置場二据置キ非常之節運送之行路ハ黒門ヨリ広瀬村水無瀬殿門前南ノ方橋本下ノ渡シ場道エ出テ水無瀬川堤ニ登リ延衰開豁ノ処ニ至ル十八斤加農ハ実彈拓榴彈専ラ遠町ヲ主トシ広瀬村 鼻街道並澱川筋両傍ヲ兼子テ放彈スルナリ近町ニハ鉄葉彈ヲ放發ス炮台ハ水無瀬川堤ヲ中心トナシ左右少シ狭キ所ハ築土ヲ以テ増補シ圓台トナス暇アラハ胸壁ヲ築クナリ**」

澱川には**橋本上ノ渡し、橋本下ノ渡し**が記入。

西国街道には黒門から南に**柳谷道**との交差、**東大寺村、広瀬村、水無瀬殿後鳥羽院御廟、百山、阿弥陀院、桜井村**記入。

西国街道「**広瀬村ヨリ橋本渡シ場迄大凡直径六丁一反余**」

桜井村入口河川の橋に「**此橋ヨリ澱川堤 数南鼻迄大凡直径九丁二反余**」とある。

天王山下東に蓮沼他沼が二個描かれる。四方に東西南北の記入。

赤一道 緑一山 藍一水 淡墨一堤

B・検証作業時代背景

本絵図には作者も年代の記載もないが、明らかに幕末、京都防衛のための西国からの要所、天王山下山崎における西国街道防衛の絵図であることが知れる。

八幡山崎周辺の研究は平成19年楠葉台場の発見により、急に注目されることとなった。この日本唯一の河川台場、内陸台場の存在は関係者を驚かせた。研究によれば、万延元年1860年には淀川対岸に橋本陣屋が構築、文久3年1863年には京都守護職松平容保が八幡山崎に関門を構築すべきとの建白書を幕府に提出、京都守護職が非常時に大坂城代を含む西国幕府勢力への指揮権を得た時代であった。幕府認可の元、八幡山崎は京都防衛の関門とされたが、長州藩復権で上洛した勢力は八幡山崎を占拠した。幕府によって不逞浪士の入京を防止するため、淀川対岸楠葉に元治元年1864年楠葉台場、北岸には慶応2年1866年に高浜台場が構築された。台場は慶応4年1868年1月幕府軍が大坂に撤退するまで機能した。せっかく構築した台場であったが、対西に機能し構築された台場は鳥羽伏見の戦いでは大坂側の幕府軍には無用のものであった。時代は嘉永7年1854年露西亜プチャーチンの大阪湾天保山沖碇泊という緊迫した摂海防衛も背景としていた。

C・絵図の描画範囲

本絵図の描画地域は右端、東北方向に西国街道の大山崎庄を描き、左端は西国街道桜井村までを描く。下一面は東南方向で澱川が流れる。東北に天王山、西北に百山が描かれる。現在地図に於いては京都府大山崎町から大阪府島本町に渡る地域である。駅ではJR山崎駅、阪急京都線大山崎駅から水無瀬駅の範囲である。淀川は南に八幡山、北に天王山があり、今も大阪と京都を結ぶ唯一の狭い関門と言える。

D・絵図の成立時期

絵図の内容を見るに天王山南麓に兵器置場が描かれている。京都警備のために松江藩に大山崎に兵器置場671坪を与えられたのは安政6年1859年11月であった。本絵図の台場置場はすでに機能しているため、絵図の上限は安政6年となる。そして、勝海舟による本格的な淀川兩岸台場の構築は先に述べたように元治元年1864年楠葉台場、慶応2年1866年高浜台場である。詳

細に山崎地区の防衛体制を記録する本絵図に絵図の下方向淀川対岸の楠葉台場も、南方に位置する高浜台場も記録されていない。絵図成立の下限は楠葉台場着工の元治元年1864年9月となる。本絵図の年代は1859年11月から1864年9月の早い時期かと思われる。

E・絵図の防衛構想と作成者

絵図の作者であるが、安政5年に京都警備を担当した松江藩、文久3年京都警備の指揮権を持つ会津藩、その指示で検討した勝海舟のいずれかということになる。絵図には設置する砲の種類、用途、弾の種類、運搬経路まで微細に記入していることから、砲術家と考えられるが、台場の設計そのものは簡単な円堡であり、勝海舟の完成した稜堡城郭の思想はなく、初期の松江藩時代の可能性が高い。

本御番所前に大砲が図示され、先に紹介したように説明がある。日本銃砲史学会峰田常務理事のご教示では二十拇短惣微砲は口径二十ドイム、二十cmのホイッスル砲であり、十八斤加農は十八ポンド（1ポンド453g＝8154g）の重量の弾丸を撃つ長砲であった。20cm口径のホイッスル砲は通常本御番所に据置、非常時に散弾、榴弾、夜間に光弾を撃つ、時に速成塁壁を築き楯とする。又小型の15cm口径ボートホイッスル砲は野戦砲であるので敵に応じて移動とある。18ポンド加農は通常兵器置場に置かれ、非常時は黒門、広瀬村、水無瀬殿門前、橋本下渡し道、水瀬川堤に上げ、延_衰開豁で実弾、榴弾で遠距離砲撃を主とし、広瀬村_口鼻街道と淀川筋両方に放弾するとある。近距離では鉄葉弾を使用。砲台は水無瀬川堤を中心に左右狭きは盛土し、砲台を造り時間があれば胸壁を築くとある。このように描かれた円堡は非常時の臨時要塞である。場所は水無瀬川が澱川に合流する手前、淀川の橋本下渡しから広瀬村に向かう街道が水無瀬川を渡り、堤防上を南下した位置に円堡と大砲が描かれている。

F・まとめ

此の水無瀬川堤の円堡の記録は残されていない。先に述べたように絵図の年代は少なくとも、安政6年1859年11月、松江藩に大山崎兵器置場を供給された以降であり、作成者は砲術に携る武芸者、もしくはその指揮官であり、円堡は非常時とあることから、野戦築城であり、臨時的、簡易的な構築物とされ、あえて言えば、非常時が本当にあったのか、円堡が構築されたのかすら判明しない。絵図に描かれた円堡が実在か、構想、計画図であるのか不明である。後に会津から淀川河川台場設計を依頼された勝海舟による稜堡城郭としての恒久性は見られない。いずれにしても緊迫した京都防衛の実際を具体的に表した山崎絵図はこれまで発見されていない。緊迫した幕末京都の防衛を具体的に図示した絵図であり、詳細な記録である。河川の流域も変わっており、今現地を求めることは不可能と思われる。消滅した歴史の一端である。5月23日

本稿は摂海防衛絵図の調査の途中に検証したものであり、機会があれば幕府測量方による天保山台場絵図、陸軍省城絵図松帆台場絵図、高崎台場絵図と海深調査絵図、毛利藩、岡山藩海防陣屋絵図を順次紹介していきたい。

現地は京都府、大阪府の県境であり、大阪側の地図は数千枚あり、調べられなかったが、京都側で細密な京都2500分I地形図山崎図幅を見つけた。本図は62枚揃で、大正11年測量で昭和28年修正、山崎図幅は現地の詳細を伝えてくれた。

なお、絵図に描かれた離宮八幡宮は嵯峨天皇の離宮跡で、長州藩屯所が山崎に会った際焼失、明治4年北側を鉄道用地にされた。縮小されたが、今も多くの文化財を残す。妙喜庵は千利休の茶室国宝待庵で著名である。宝寺（たからでら）は宝積寺と言われ、山崎合戦の際は秀吉の本陣となった。今も重要文化財三重塔や本堂、閻魔堂を残す。

戊辰戦争瓦版、極東志らべ城州ふし見其外所々出火之図 慶応4年辰正月3日申之刻より出火云々 木版絵図に山崎の地名と柵が描かれる。

5・真田氏歴史館『大坂城真田丸展』始まる。9月30日まで。上田市合併10周年記念事業。

5月25日上田を訪問した際、関連施設を歴訪した。真田氏歴史館には平日の午前中に何台もの大型バスがきていた。坂井尚登氏の講演は7月2日1時、真田中央公民館大ホール。上田市立博物館は隣の文学館も第一次上田合戦展になり、城内駐車場は閉鎖され、名店街が出来ていた。城内の大河ドラマ館は入らなかったが、近く江戸博の展示が上田に移るとのことでした。真田丸一色の上田と真田郷でした。ゆきむら夢考房には上田城本丸城門と南北櫓のプラモと紙模型が売っていました。プラモはパーキングで買ったような。



真田氏歴史館に貸し出した絵図展示、お客さんが引いた際に撮影。大坂冬の陣絵図、夏の陣絵図。



尼ヶ淵の断崖上の西櫓と南櫓、駐車場はこの下、登るのは大変、年配の方が団体で登っていました。



大河ドラマ館



城内駐車場跡の臨時売店



上田市立博物館、隣も上田合戦展

新収集情報報告

掲載は入手順に入手後、翌日に記載しています。メモ代わりの備忘録ですので順不同です。

掲載分類は城郭図、城郭錦絵は城郭、群馬地図、資料は群馬、錦絵地図は錦絵、地図類は航空写真も地図、錦絵軍事、砲術、調練は軍事、後はタイトル通りです。

1・古絵図・古地図

酒田町絵図(仮) 木版 左半分は酒田港と飛島、右に酒田町、鳥海山、亀崎城址を旧城跡と描く、刊記無、刊年不明、幕末から明治頃か

山形市街実測全図 大正5年 山形市役所 裏奥羽6県共進会案内 39 x 55 cm

改正庄内鶴岡全図 9000分1 大正7年 太田金吾 39 x 54 cm 裏広告37件

銅版明治東京地図 銅版印刷ではなく、銅板に彫刻された東京中心部地図である。同一のものを所蔵しているが、来歴は不明であった。今回、タトウ入りでシールには北陸銀行東京支店とある。Since 1886 100 とあり、銀行の100周年で1986年に東京で作成されたものと判明した。トレペに印刷された当時の東京地図が同寸で添付され、変遷が見れるようになっている。1886年は明治19年ですので、銅版は当時の地図と思われ、東京の100年を見る目的と考えた。額入り。

アメリカ政府機関 NATIONAL OCEAN SURVEY 発行の ONC100万分1と TPC50万分1航空地形図

マップハウスによれば昭和59年段階でアメリカと中米が発行禁止となっているが、ONCは245面、TPCは250面で、世界の陸地をカバーしている。北極から南極までをA-Uで分割、ヨーロッパからアメリカまでをI-29で表示、50万分1のTPCはONCを4分割し、ABCDとしている。今回、入手は以下の通りで、アメリカを含んでいる。

ONC—C3—8 D3—9 E3—10 F3—10・16—19 (12—15は海欠番) G7—10・19—21 (12—17海欠番) H11・12・23・24 (18・18—21は海欠番) L10 (JKMNPQRSTUは所蔵せず) 1枚108 x 146 cm **45枚/245枚**

TPC—C—1D・2ABCD・7A・9A D—2ABCD・3A・8D E—1AB・2BCD (B2種)・3BD・10AD F—1C・2ABCD・3CD・4AD・6BC・10B・11A・16C・18A・19D G—1ABCD・2ABD・3AB・4ABCD・5ABCD・7D・9AC・10BC・18AC H—1B・5AB・6ABCD (AC2種)・7ABCD・8ABCD・9ABCD・10ACD・11BD・12C・22B・24B I欠 J—7AB・8C・9AB・10ABCD・11BC・12AC・24C・25C・26ABC・27D K—2A・5B・6AB(A2種)・9B・10AD・11BCD・25ABC・26CD L—5D・10ACD・11BCD・12AD・26B M—5C・10C・11ABD・12B N—12AB Q—15AD **145枚/250枚** 未刊地区多し

計190枚/495枚約40パーセント

1975年昭和50年もしくは1983年昭和58年刊行

30万分1集成図北方四島 平成3年 国土地理院 79 x 108 cm
朝鮮東岸北部諸分図第四 城津浦及臨溟海 明治41年水路部 49 x 75 cm
KARACHI GUIDE MAP 1982-83年 4万分1 88 x 128 cm
長江萬里図 呂仏庭画 中華民國69年 32 x 1620 cm
山形市名家案内 戦前 表に20件写真入り裏に84件広告 54 x 79 cm
安蘇郡佐野町市街・勉強商店一覧表 39 x 54 cm 75軒広告
名古屋市全図 5万分1 戦前 35 x 50 cm
実地踏測大阪市街全図 大正13年 52 x 79 cm
真宗大谷派本願寺図絵 20 x 53 cm 戦前
大大阪主要地帯図・京都名勝遊覧図 大正15年 38 x 53 cm
西国靈場三十三所巡拝地図 昭和7年 鳥瞰図
名古屋市街全図 昭和3年 54 x 79 cm
山形県飽海郡江戸期村絵図古文書1箱 黒塗り箱入り 32 x 36 x 8 cm
三条市全図 戦前 9000分1 39 x 51 cm
新潟市図 戦前 12000分1 52 x 78 cm
津軽要塞地帯図 陸軍省 40万分1 26 x 33 cm 許可なく要塞地内の測量、撮影、模写、
録取、航空を禁ず
改正函館港全図 明治37年 石版色刷 鹿野忠平 54 x 79 cm
北海道六大都市明細図 北海タイムス附録 昭和3年 54 x 79 cm
北海道冷害地域図 昭和17年 手彩色 54 x 79 cm
留萌支庁管内図 昭和3年 79 x 106 cm
福岡県若松市街略図 非売品 明治石版 36 x 39 cm
敦賀港及敦賀町之図 大正15年 59 x 67 cm 水野定治
栃木市街六千分之一之図 明治39年 町田清吉 39 x 54 cm
宮崎県管内図 昭和6年 66 x 93 cm
三重県管内地図 1951年 62 x 88 cm
千葉県管内全図 昭和25年 61 x 78 cm
沖縄県管内地図 昭和10年 79 x 87 cm
東本願寺御殿之図 正徳2年1712年 木版 44 x 70 cm 丁子屋九良右衛門
下野国足尾庚申山之図 明治33年 石版 39 x 54 cm
中国播磨大和高野山伊勢名古屋東海木曾略道中記東京善光寺西京道のり附 木版 32 x 43
cm 両面摺り 京三條御定宿びぜんや引札
陸前東海金華山正面図 木版 慶応元年 47 x 65 cm
改正東京測量全図 明治14年 銅版色刷 高梨弥三郎 49 x 67 cm
札幌市山鼻新地図 7000分1 山鼻開村五拾年記念祝賀会 54 x 79 cm 1924年
大正13年 袋付
新撰札幌市街番地等級明細図 袋付 明治36年 石版 三才閣井本菊太郎 廻りに40余の
写真 54 x 79 cm
網走支庁管内図 大正9年 76 x 103 cm 袋付
満州軍総司令部作成地図 明治38年6月12日-13日 秘図 日露戦争中に作成された軍

用地図である。一見手書き原図のような細密地図 薄葉紙 20万分1 海龍・開原貼附・奉化及興隆店・英額城及小狐山の北面・海龍及磐盤山・英額城及小狐山・同西面・興京・八面城・英額城・奉化・昌図・長春・開原・金家屯・吉林以上15枚 5万分1 三家子・通江口・大葦子溝3枚計18枚

第三軍司令部(参謀部)作成地図 84000分1 八宝屯及遼陽窩棚附近補足図・八家子(遼陽鹵獲図翻訳)・八面城(遼陽鹵獲図翻訳)・二十家子(遼陽鹵獲図翻訳) 4枚

第一師団参謀部作成地図 10万分1 三眼井附近ノ目算測図・無名西に遼河小北河等(第一師団衛生隊長)朱印・狼洞溝(第一師団衛生隊長)朱印・断簡2枚新民庁等・(第一師団衛生隊長)朱印・断簡1枚狼洞溝等6枚

地図絵葉書 近畿防空演習区域要図昭和9年7月28日3種・鹿児島県地図・陸軍特別大演習記念大本営内昭和8年10月27日2種・関東地方大演習地域鳥瞰図2枚・

2・古典籍・古記録

3・印刷資料

4・錦絵・引札・双六・絵葉書・古写真

横山大観北大路魯山人揮毫日本国旗と魯山人皿 皿12x13cm 丸皿裏書名『魯』、国旗日の丸左右に墨書き『震天勅地起雲叢風 陣鼓銘 大観』『軍勢弥[□] 魯山人』 戦前の作

川瀬巴水木版画 上高地・日光華厳滝・狩勝峠・十和田湖・別府観海寺・室戸岬・雲仙岳

山川秀峰木版画 美人秋・美人画たそがれ

錦絵お化け3枚続き2題 豊国

錦絵豊国漫画三ッ組盃 豊国 団十郎、三津五郎東9名

錦絵東京名所内浅草浅草寺 広重 大判横

錦絵名妓三曲合 芳虎広重合作 三枚続き

錦絵諸国名所図会内西京東山一覽 明治13年 広重 三枚続き

錦絵頼光大江山入之図 芳幾 3枚続き t

錦絵東京真景図会向島大手の燈籠 東京名所図会隅田堤の燈籠 2種 広重

錦絵東海道五十三次の内日本橋・箱根・日阪・三島・舞阪・府中・江尻・掛川・藤川駅 豊国

錦絵書画五十三駅伊勢庄野・遠江舞阪・近江金谷・近江土山・三川御油・遠江見附・遠江掛川・伊勢石部・伊勢関 芳虎

石版帝都大震災画報 日本橋より魚河岸及三越呉服店附近延焼・浅草公園十二階及花屋敷附近延焼之状況・上野公園帰運台に於て殿下災害御視察之図 39x54cm

東海道五十三次木版扇面 12x26cm 広重 56枚

散華木版 10種袋入30枚 薬師寺 一流作家による美しい木版芸術

さくら井屋絵封筒 3種4枚 京舞子 木版

錦絵石山本願寺合戦 豊宣 明治26年 鈴木孫一・善住坊・高山右近・加藤清正・仙石権平・片桐且元・福島正則 3枚続き

5・軍事資料・武器武具

火術連名簿 明治10年4月3日4日備前嶋村放発 火術表目

日露戦争号外 南信評論社・一部諏訪新聞社・報知新聞社 明治37年4月20日—明治38年1月2日まで 実に215枚、ほとんど毎日、緊迫した戦場の様子を伝える。

6・城

金龍縄張問答 信長安土築城記録等 数冊あるので何れ検証したい。

川瀬巴水版画木曾川犬山 20 x 27 cm

御大札記念二条城内豊楽殿大饗宴之御盛儀 石版 39 x 54 cm

城郭文献 西摂大観古城址古戦場・木下藤吉郎墨俣築城への道・戦国の城は民衆の危機を救った・高田開府400年記念誌・正保城絵図高田城榊原文庫蔵（内閣文庫戊辰戦争散逸絵図）・金箔瓦の城・大阪城上田城友好城郭提携記念秀吉と真田抄録版・上田城史料調査報告書・朝倉氏史跡公園基本構想・尼崎城跡第43・46次調査概要・**史跡江戸城外堀跡保存管理計画書**・鬼ノ城謎の古代山城・石田三成と忍城水攻め・大御所徳川家康と駿府城公園・渥美半島の城館・尾張北部の中世城館・史跡鬼城山Ⅱ・岡山城内堀・練馬城址遺跡調査報告書・鳥取城調査研究年報第3号・**史跡小田原城御用米曲輪発掘調査概要報告書**・平林城跡Ⅰ・南砺の城と人戦国の寺城いくさ・金沢城跡3・**加越国境城郭郡と古道調査報告書**・江戸城城下と伊豆石・さあべい第27号山形の中世城館跡特集・最上義光を考える小論集・中世やまがたの城館・江戸城と多摩・葛西城址青戸御殿・静岡県に於ける戦国山城・挙母城跡衣城跡他・御船城跡・織豊城郭第15号中井均代表還暦記念号・新視点日本の城郭研究と成果・構築技術から見た織豊系城郭の石垣の成立・**織豊期城郭の石切場**・城郭絵図集昭和36年・

城絵葉書 陸軍特別大演習記念大阪城天守閣昭和7年11月14日5種・大阪城公園天守閣竣工記念・御大札記念大阪城絵葉書大阪市3枚・大阪商工祭創始昭和8年11月2－4日・第四師団司令部大阪城天守閣絵葉書4種・昭和大札記念大阪城公園・近畿防空演習記念大阪城天守閣昭和8年7月27日・大札記念大阪城公園竣工記念昭和6年11月7－15日3種・岡山城2種・弘前城・広島城2種・姫路城2種・熊本城宇土櫓4種・高知城・大阪城・名古屋城・江戸城・熊本城・明治10年西南戦役以前の熊本城全景・

7・群馬郷土資料

8・資料

あとがき

1・大谷光瑞伝記小説『天の伽藍』津本陽、

基本小説は読まない、城の研究資料が常に100冊以上枕元にあるからである。本書もほかの資料についてきて、処分するに心残りで積み上げてあったものである。物語は日露戦争の間際、西域を探検する光瑞と其の指揮下の探検家の苦闘の記述であった。明治という時代に本願寺門主という皇族並の地位と財力により、国家事業ともいべきアジアの仏教遺跡を多くの苦難というよりか、死闘を乗り越えて踏査した。多くの遺跡を発見し、堡塁を踏査した。多くの仏教遺物を持ち帰ることが業績とされた功罪は当時の世界観、倫理観抜きには論評でないが、未知のものに対する挑戦という視点で、未知の中世城郭の解明のために、茨のジャングルをものともせず、潜り抜ける、誰も行かない山を踏査する、真理追求の姿勢に大きな共感を覚えた。茨に絡め捕られて身動きできなかった、竹藪を潜り抜けて新しい郭に出た、崩れそうな断崖の壁を確認のために踏査した、マムシやスズメバチとの遭遇、藪蚊の襲撃、人が足を踏み入れない山野は危険に満ちている。それにもかかわず調査は単独行である。というか、ついてきて来れる人がいない。皆さん気を付けてといっても城に取りつかれた病気としか言いようがない。未知への挑戦、それは人生最大のテーマ。

2・高田開府400年祭実行委員会正保高田城絵図

いつものように、城郭文献を入手する手配をし、高田開府400年記念誌とともにお送りいただいたのが正保城絵図高田城であった。当初は単なる内閣文庫の複製かと気軽に考えていたが、新潟

県指定文化財とあり、上越市立高田図書館所蔵榊原文書の絵図であった。御承知の通り、約150ほど作成された正保城絵図は内閣文庫に63図しかなく、重要文化財になっている。本図は戊辰戦争の際に新政府軍によって持ち出された絵図であった。このような絵図の公刊は非常に喜ばしい。城郭研究の基本資料である。簡単な解説のみで、絵図寸法等基本情報が書かれていないが、今後詳細な研究に期待したい。

3・しろはく活動記録古地図と城の泉30号紹介普賢寺城館絵図

先に40年前に関西城郭研究会で見学した絵図と紹介したが、当時の写真が出てきて、確認したところ、寺院所蔵の絵図（寺院名は記録していない）に天保の記入はなく、本図の原図であった。当時すべての城館を撮影し、A4サイズに引き伸ばし、ほぼ原寸で活用できるようにしていた。当初は絵図が流出したと理解していたが、そうではなかった。

4・日本城郭近畿学生研究会、通称近畿学研、OB会6月11日開催

宮田さんが幹事、兵庫県尼崎で開催される。参加者12名とのこと、46年ぶりの面々、創設者の橋本さんが隠岐に出かけて不在なのが残念ですが、昭和45年卒業以来お会いしていない顔ぶれもおられる一方、中井さんには日本考古学協会で数日前にお会いしたばかり。その中井さんの織豊城郭還暦記念号が出ていた。8歳下の彼が還暦ということは当時のメンバー総てがリタイヤし60代ということになる、まず、お顔を拝見して誰か当ててみたい。

発行所

しろはく古地図と城の博物館 富原文庫

379-0109

群馬県安中市秋間みのりが丘5-73

090-2722-4689(しろはく)

FAX027-315-4689(しろはく)

shirohaku@kym.biglobe.ne.jp

ミュージアムショップ 群馬県古書組合加盟

古地図と城 古書肆 城郭文庫

代表

富原道晴

日露戦争における明治38年鹵獲図

満州軍総司令部、第3軍参謀部、第一師団司令部作成地形図

